

伝統のジオラマは水没…、しかし。

台風前夜、部員の好判断

鉄道研究部



工学部 電気電子工学科
3年・前部長
掛上大睦君

工学部 電気電子工学科
2年・部長
渡邊素周君

工学部 機械工学科
3年・前副部長
北條尚史君

部員全員が目を疑った奇跡の救出劇

学内外を含め、年間を通して鉄道ジオラマを使ったNゲージの展示・体験イベントを行うことが多い鉄道研究部。1号館地下の部室が浸水してしまったことで、30年以上に渡って受け継がれてきた、鉄道研究部自慢のジオラマレイアウトが使えなくなりました。「我々のジオラマは木製。水が被った状態で1週間放置せざるをえなかったので、びっしりカビが生えてしまったんです」(渡邊君)。

「カビを除去して使い続けることも考えました。しかし、被った水が汚水でしたので、大勢の人前で使うのは、さすがに衛生

上問題があるだろうとの判断から、止む無くジオラマを破棄することを決断しました」(北條君)。

ジオラマは残念でしたが、ある部員の好判断によって助かった物品もたくさんあったそうです。「部員一同、高価な模型類も全滅かと諦めていました。ところが、3年生の部員が危険を察知し、なんと、台風前日の夜に一人で車両やコントローラなどを18号館の部室に移動してくれていたのです。これにはさすがに部員一同から大きな拍手が沸き上がりましたね。そのお陰で、高価な模型類は全て無事で済みました。この奇跡的な救出劇は、部員の間で後々語り継がれる伝説になるかもしれませんね」(掛上君)。

東急バスが企画する「廃線から半世紀 玉電と世田谷線をたどる旅」というバスツアーに監修という形で参加させていただきました。コース選定やお土産の品も東急バスの方と一緒に作りしました。

ジオラマのヤードに並べられた東急やその直通先の車両です。自慢のジオラマはヤードがとて大きくそこに沢山車両を並べた様子は壮観でイベントに来てくれたお客様にも好評でした。



2019年8/27～9/2に夢キャンパスで行われたイベントの様子です。これが「伝統のジオラマ」を用いた最後のイベントとなりました。